

I 実践

1 研究主題

児童一人一人が自他の良いところに気付き、認め合い行動できる人権教育の在り方

(1) 主題設定の理由

本校では、めざす児童像の実現に向け教職員を「元気 UP プロジェクト」「学び UP プロジェクト」「笑顔 UP プロジェクト」と、3つのプロジェクトチームに構成し、各種教育活動を展開している。人権教育は「笑顔 UP プロジェクト」に属し、明るく、あいさつができる子・友達の立場や気持ちを考える思いやりのある子・進んで協力し助け合う子の育成を目指し取り組んでいる。しかしながら、児童アンケートにおいて、「自己有用感をもっている児童の割合がやや低めである」「自己や他者の人権を尊重しようとする思いが具体的な行動に表れにくい。」といった課題が見えてきた。そこで、学校の教育活動全体を通して実践する人権教育の在り方を研究し、自分や他者の良いところに気付き、お互いを認め合っそれを行動に表すことのできる児童を育てたいと考えて、この主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ア 体験活動を通した児童の人権意識の育成
- イ 学校全体における人権に関する啓発活動

2 実践内容

(1) 体験活動を通した児童の人権意識の育成

ア あいさつ運動

本校では、毎朝生活委員会の児童と教職員が昇降口付近に立ち、登校してくる児童にあいさつ運動を実施している。生活委員会の児童が、マスク越しに言葉をかけるので、あいさつが苦手だった児童も少しずつ元気にあいさつが返せるようになってきている。例年は、学期ごとにマナーアップ週間の時期に合わせて泉丘中学校の生徒や PTA の役員と連携したあいさつ運動を行っているが、今年度は感染症予防のため校内のみで実施してきた。



イ いじめ0（ゼロ）週間

児童集会で、例年いじめ0集会を実施している。前年度に引き続き、今年度は「いじめ0週間」として活動を行った。はじめに、家庭でいじめについて話し合ってもらい、「めばえ」や「心のノート」に親子で記入することからスタートした。その後、家庭で話し合ったことをもとにいじめがなぜいけないことなのか、自分がいじめをされたらどうするか、いじめを目撃してしまったらどうするかなどいじめ防止の観点から、各学年・学級の発達段階に応じて学級ごとに話し合った。そして、各学級において決めたスローガン「いじめ0のちかい」を、昇降口前のホールに掲示した。

個人においては「いじめ0の宣誓書」の内容を確認してサインをし、「いじめ0」シールを胸章の裏に貼ることで「いじめをしない」という誓いを立てた。学校全体としていじめをしない・させない・ゆるさないという土壌づくりに努めている。さらに、学校だより、学年だより、生徒指導だよりなどで「いじめ0（ゼロ）運動」の取り組みの様子を保護者に知らせ、理解啓発を図っている。

ウ のびのびタイム<縦割り異学年交流>

月に1回程度、ロングの昼休みに1年生から6年生まで縦割り班で交流する活動である。6年生が班長になり、その日の基本となる遊びをもとに、下級生も楽しめるようにルールやグループ分けなどを工夫して活動している。それぞれ12班に分かれた班ごとに、ドッジボールや大縄、リレー、鬼ごっこ、昔遊びなどを実施している。

6年生が中心になり、整列の仕方や遊び方などを下級生に優しく教え、交流を深めている。異学年との交流する機会を得て、高学年のリーダーとしての意識が芽生えるとともに、普段は外遊びが苦手な子どもたちも自然に溶け込み、異学年と遊ぶ楽しさを感じる時間となっている。感染症予防のため中止となる期間もあったが、実施できる際には遊びの内容を工夫してきた。

(2) 学校全体における人権に関する啓発活動

ア 「人権メッセージ」・「人権ポスター」作品への応募

道徳や総合的な学習の時間の内容とリンクさせ、夏休みの課題として人権メッセージと人権ポスターを募集した。「人権メッセージ」は、児童が人権について考え、人権意識を高めるため、そのきっかけとなる有効な方法である。自他を認め合い、その気持ちをどのように行動に表すかについて、自分なりの考え・思いを各学年の発達段階に応じて表現できるようにした。全校で総数 103 点の応募があった。

イ 道徳の授業におけるアニメ「めぐみ」の活用

6年生の道徳の授業で家族愛を中心題材としてアニメ「めぐみ」を活用した道徳の授業を行った。多様な視点があることを念頭に児童の人権にも触れ、一人一人を大切にしていくことが、人権を守り幸せな生活を築くことができることにつながるということについても学習した。

エ 校内研修の実践

校内において、教師のコンプライアンス研修を定期的に計画・実施している。いじめ、体罰、性的指向、同和問題など様々な視点から人権問題について考えることにより、児童の人権教育に携わる教師の人権福祉に関する理解と認識を高めることを目指している。

オ 学校と家庭、地域社会との連携及び理解啓発活動

学校だよりや学年だより、学校ホームページなどを通して、保護者や地域の方々にも人権教育に関する本校の取り組みについて知らせてきた。また、日々の児童の様子を伝える際にも個々の人権に配慮した表現に努め、人権教育の理解啓発を図っている。

3 研究の成果

- (1) 前年度に引き続き、本年度も感染症予防対策を講じた上で、校内でできる取り組みを進めてきた。例年計画していた地域との交流や体験活動の実施は難しかったが、活動内容を精選・工夫することで、限られた活動の中でも児童の人権意識が高まるような充実した取り組みをすることができた。特に「いじめ0運動」は、家庭で話し合ったことをもとに学級で意見をまとめることで、学校と家庭が同じ方向を向いて、児童の「いじめをなくす」という意識の向上を図ることができた。
- (2) 本校の教育課程におけるそれぞれの教育目標の達成を通して、正しい判断力と豊かな情操を養い、児童の人権感覚を高め、人権意識の育成に取り組むことができた。また、家庭や地域とも連携を図り、学校での取り組みを伝えることにより、学校のみならず児童を取り巻く環境全体において人権に関する啓発活動を推進することができた。

II 今後の課題

今年度も前年度に引き続き、感染症予防のためにいろいろな活動を縮小した。特に人権活動の大きな柱となっていた地域との交流や外部講師を招いての人権教室などが実施できなかった。今後の学校教育の現場においては、現在のような制限された状況が続くかもしれないことを視野に入れ、これまでの活動内容を見直し、主として校内で行い成果を上げられる人権教育の進め方を考えていくことの必要性を感じた。人権に関する学習や活動の仕方をさらに工夫し、児童一人一人の人権意識を高めることで、実践につながる態度を学校全体で育てていきたい。また、教職員の校内研修や、家庭・地域への啓発をさらに充実させて、学校・家庭・地域と三者が連携しながら、児童の教育的活動全体を通して一貫した人権教育を進めていくことができるように努めていきたい。

III 人権コーナー設置の様子

昇降口のホールに設置した人権コーナーでは、校内で募集した人権メッセージを掲示した。日常的に目にする場所に一つ一つのメッセージを読みやすく掲示することで、児童が様々な人権についての考え方に触れられる機会を設けた。あわせて低学年の児童にもわかりやすい言葉を掲示し、児童が人権について自分の生活に関連付けて考えられるようにしている。

その他にも子どもの人権だよりや人権啓発ポスターなどを掲示し、児童が人権について考えるきっかけとなる環境づくりに努めている。



人権コーナー